

## 令和5年度石川県スポーツ推進審議会 議事録

日 時：令和5年11月14日（火）10：00～11：00

場 所：県庁11階 1109会議室

出席者：委 員 北山会長（県スポーツDr. 協会長）以下11名

事務局 酒井部長、戒田次長、北川次長、村角課長、瀬戸課長、各G.L

（開会、部長挨拶、会長挨拶）

（1）スポーツ振興の取り組み状況と今後の方針（村角課長説明）

（以下、委員からの意見・質疑応答）

### 【北山会長】

3つの大きな柱で説明されました。委員に皆様には活発な意見をお願いしたいと思いますが、まずは競技スポーツ振興という項目について、ご発言をお願いしたいと思います。

### 【梅本委員（高体連会長）】

高校におきましても、少子化に伴い、運動部活動の部員数が減少傾向にあるのが実情でございます。特にマイナーな競技については、部員の確保が非常に難しいという状況です。そのため、競技力の向上のためには、小学生や中学生のころから選手を確保し、あるいは、裾野を広げることが重要であると考えておりますけれども、ここに記載のあるジュニアアスリート発掘事業は新規ではないので、これまでの取り組みがあるかとは思いますが、これまでの成果について教えていただければと思います。

### 【小畠課参事】

先ほどのご質問についてですが、平成30年からいしかわジュニアアスリート発掘事業という小学生を対象としたジャンプ力や瞬発力などの測定、それから体験会をやっております。マイナースポーツに関しまして、レスリングやフェンシングなどの見本市を開催しております。普段体験することが少ない競技について同時に体験をしていただいている。そこで測定会で興味を抱いた競技に対してさらに踏み込んで、競技団体

によるスポーツ体験教室も開催しております。これまで、ライフル射撃競技やレスリング競技など、10競技で34名の方が競技を継続しております。今後も、ジュニアの発掘に向けた取り組みを実施してまいりたいと考えております。

【梅本委員（高体連会長）】

ありがとうございます。ぜひ、よろしくお願ひいたします。

【北山会長】

そのほか、競技スポーツに関してのご意見はございますか。では2番のスポーツの裾野拡大・地域活性についての、ご意見をお願いいたします。

この項目の中で、トップスポーツチームに対する応援気運のさらなる醸成、それから実施率の低い世代や女性のスポーツ活動の推進、熱中症対策の3つが挙げられておりますけれども、石川県の週1回以上のスポーツ実施率を見ていますと、若年層働き盛りの40代の女性の実施率が低いと、こういったところをどう改善していくかということについて何かご意見をいただきたいと思います。尾山副会長いかがですか。

【尾山副会長（元女性スポーツ協会会長）】

女性の実施率が低いということで、これを見て本当にがっかりですけれども、私は石川国体のお手伝いということで、平成元年から30年間、石川県女性スポーツ協会をしてきましたが、やはり、少し年のいった方が集まりやすいというか、働き盛りや子育てしているママさんたちは、集まりにくいということが現状でした。30年間やってきた中で、もっと魅力的なことを提供すれば、もっと若い人が集まったのではないかと反省点もありますが、資料の右側にある石川県スポーツ大使によるスポーツの魅力発信という魅力を前面に押し出して、若い世代を取り込めたらと思います。もともとスポーツの好きな女性は何も言わなくても自分でやっています。ところが今の若い世代の方は、一人でやりたいとか、大勢で集まって何かをするということ、時間があって何時に集合して、何時までということが苦手なんだと思います。個人個人でやっている方が楽だという気持ちが強いと思います。そこをどういうふうに割り込んでいくか、イベントに呼べるか、どうすればいいか分かりませんが、もっと簡単に集まれるような、多く集まっているものもありますので、魅力のあるイベントをもっと提供いただければと思います。県の中で30分ができる

スポーツもあります。1時間2時間ということになると集まりづらいですが、東京では10分15分だけでもスポーツをしたりという若い方が、勤務外に立ち寄ってスポーツをするということが石川県ではあまりないので、そういうことも魅力なのかなという気もします。

【北山会長】

ありがとうございます。婦人団体協議会の能木場委員は何かご意見ございませんか。

【能木場委員（県婦協会長）】

今、尾山副会長のお話のように、お若い方は子育てやお仕事で大変なんでしょうけれども、私たちの団体は50代から70代、後半戦の方の少しお仕事もリタイアされて、婦人会の会長を引き受けたという方が多くて、そんな中、皆さんのお話を聞きますと、ジムに行っているとか、学生時代にしていたバドミントンをしているとか、卓球の教室に一緒に行っているとか、そんなことをお聞きします。この表を見ますと、高齢の方は一生懸命スポーツを頑張って、余暇を楽しんでいるんだなと思います。みんなで自分の健康は自分で守るという、食事にしても家族の健康は私たち台所預かっているものだねというつもりで、自分のことも大事ですけど、家族のことと考えてということで、日頃取り組んでおります。スポーツにしても、みんなで元気で長生きできますように、足腰がいつまでも元気いれるようにということで、みんなが少しスポーツに勤しんでいただく時間を何とか確保できるよう、若い方にも伝えたいなと思っております。

【北山会長】

ありがとうございます。可長委員どうぞ。

【可長委員（中体連会長）】

学校の働き方改革もありまして、なかなか学校の行事を増やしていくことは難しいのですが、金沢市は文化都市といわれ、観能教室やオーケストラアンサンブルとか、21世紀美術館とか、そういったところに学校単位で教育委員会が招待したりしておりますが、スポーツ観戦という行事が一つもないです。やはり見る知るという点では、県内にもPFUやハニービー、ツエーゲンなど強い企業チームがありますので、そういったところの大会に学校単位でスポーツ観戦しましょうということになれば、子

どもたちのスポーツに対する意識が高まるのではないかと思っていますが、ただ、行事を増やすことが難しいというもどかしさはあります。

【北山会長】

ありがとうございます。他にいかがですか。田中委員どうぞ。

【田中委員（県障スポ協会副会長）】

今、スポーツ観戦ということで、我々障害者もテレビでスポーツを見ますが、実際に現場に行ってみるとなると、やはり施設がバリアフリーになつていないとか、トイレがないとか、県の野球場も古くなり建て替えの話もありますが、その時にはぜひ我々車いすとか、いろんな方が入れるような施設にしてほしいと思います。金沢市のサッカー場も、ヒアリングをしていただいて、我々車いすの目線とか、中にはストレッチャーでも観戦できるようヒアリングをしていただきましたので、ぜひそう言ったところも含めて考えていただきたいともいます。

【北山会長】

ありがとうございました。笠原委員どうぞ。

【笠原委員（金沢星稜大学講師）】

これまで、オリンピック・パラリンピックの運営のスポーツビジネスの方に関わってまいりまして、特に昨今の状況でこれは厳しいなと思ったことは、オリンピック・パラリンピックの期待が過去最低となっておりまして、そういう意味で今年5月19日にパートナー都市協定を締結されておりますが、進めていくには東京オリンピックレガシーはあまりにもお粗末すぎますし、これからどうやって期待を高めていくのか、非常に難しい時期にしているなと思っています。それに加え、スポーツのイベントをやっていくときに、今まで依存という言葉ですけれども、非常に代理店に依存した運営を日本全国でやっておりまして、こういったイベントのノウハウが不足していて、その最たるものに札幌オリンピックの招致が頓挫したといったこともでてきておりますので、非常に難しい時期にきているなと思っていますし、地元の気持ちを高めていってといいますか、スポーツに対する期待を高めるには別の意味で厳しい時期に来ているなと思っています。そういう意味で、難しいことなどは情報共有いただければと思います。

## 【北山会長】

ありがとうございました。たくさんのご意見ありがとうございます。では、3番のパラスポーツの振興について、田中委員からお願ひできますか。

## 【田中委員（県障スポ協会副会長）】

パラスポーツの振興ということで、今年度からスポーツ振興課の方にということで、非常に期待をしております。まず、競技するところがあまりありません。金沢市内でいうと、駅西のむつみ体育館という古い、私がちょうど車いすになった頃にできた体育館があるだけで、なかなか色々なスポーツをする場所がないというところです。今、私たちが入っています県社会福祉会館の建て替えの話があります。どこになるか具体的なものはありませんが、ぜひ社会福祉会館の中に、せめてバスケットコート1面分の体育館を併設してもらいたいと思っています。福井県の社会福祉会館の2階にそういったものがありますので、最近はそういったところが多いでお願いしたいと思います。

もう一つ、先だって金沢マラソンがありました。金沢マラソンは石川県の中で一番大きなイベントだと思います。参加人数も応援する人も。ただその中で車いすだけはまぜてあたりません。参加できないんです。1回目から金沢市の金沢マラソン推進課が段取りしていると思いますが、そこにも行っていますが、やり方ができない云々ということで、今年はあまり言うものだから、前日にファンランということで、子どもたちと一緒に車いす走ればいいのではないかというふうにやりましたけれども、日ごろ練習している我々のトップアスリートはあれはなんやということで参加しませんでした。会員のメンバーはほとんど2時間以内に走りますので、コロナ禍でなかなか新しいことをできなかったかもしれません、来年は10回目ですから、せめて我々は推進課の方には、金沢プールからゴールまで約10kmくらいのコースだけでも走らせてもらえないかと、金沢マラソンは県も主催者の一人だと思いますので、それから令和元年に共生社会づくり条例というものができました。これ我々から言わせると金沢マラソンは条例違反です。石川県の一番大きなイベントでは是非、来年は走らせてほしいと、我々の選手もそう思っていますので、だんだん金沢マラソンができた10年前から見て、競技人口も先細りしていると思います。レース代もかなり高いです。県内で走る機会がないとなれば、だんだん先細りして競技人口が少なくなっていくと思いますので、その辺のところは一つよろしくお願ひします。

## 【北山会長】

ありがとうございました。他にご意見ございませんか。

パラスポーツはどうしても健常者との間に少し溝があって、そういう意味では一緒に何かやろうとか、お互いに理解しようといったスタンスが少ないと思います。いろんなパラスポーツの企画があった場合に、健常者もどのように参加していくか、あるいはどんな形で交流していくか、そういうような仕掛けを作っていただいて、私はドクターですけれども、パラの方はすごい能力を発揮して感動します。そういうことを分かっていただける仕掛けを何か作っていただければと思います。

では、次に移りたいと思います。報告事項2の「休日部活動の地域移行の取り組み状況と今後の方針」について、事務局から説明をお願いします。

### (2) 休日部活動の地域移行の取り組み状況と今後の方針 (瀬戸課長説明)

(以下、委員からの意見・質疑応答)

## 【北山会長】

ただ今のご説明について、ご意見を伺いたいところがありますが、なかなか大変な事業で、私もいろんな情報を頭の中で整理しようと思いますが、なかなか見えてこない。今の説明では、まずいくつかの地域を区切って、実証的にこれを振興しつつ、その中で得られたノウハウをどうやって実現化していくかということをされているということでした。特に学校関係の中体連の可長先生いかがですか。その後、大井川先生もお願いします。

## 【可長委員（中体連会長）】

地域移行に関して、学校現場から様々な意見が出てきます。私の耳に聞こえてくるのは、肯定的でない話が多い。やはり中学校から部活動がなくなるのではないか、中学校では生徒指導面で部活動が有意義な活動であって、子どもたちを学習面ではなくて、心の悩みなんかは部活動は非常に重要です。今回土日の地域移行ですが、土日だけ地域移行してやるというところに、様々な問題も書かれていますが、中学校の大会も土日にたくさんありますし、練習試合も土日に結構行われている中で、そういうところの対策も考えないで進めていくことは難しいということ、あと一つ大きな問題として、今年度からスポーツ庁の方が、すべての中学生に全

中大会の参加を認めるということで、今年の中学校の大会からクラブチームが大会にたくさん出てきています。そのクラブチームと地域クラブが混同されてしまって、この問題をややこしくさせています。クラブチームに参加する時には勝利主義にはしってはいけないとされていますが、やはり全中を目指して出てくるクラブチームなので、基本的に自分から見ても、勝利優先で頑張っているチームがたくさんありますし、土日の地域移行に関しては、そうでない要素もたくさん含んでいますので、そこが混在してしまって、学校としてもこれがどう進んでいくのか、みなさん見えないところが多いと言っています。スポーツ庁も3年で完了といっていましたが、推進ということでものすごくトーンダウンしているところもありますし、基本的には荒治療的に、全国の中学校5時に帰して、平日は1時間とか、土日はしないとか、そういうふうな体制ができてくれば、地域で受け皿を作るしかないじゃないかという強制的なところに進めない限り、本当に進んでいくのかと先生方が疑問に思っているところだと思います。

#### 【北山会長】

ありがとうございました。それでは大井川先生お願いします。

#### 【大井川委員（学体協会長）】

私の現場は小学校でありますので、なかなか中学校のお話をし難い状況ではありますが、お話を聞いておりますと、地域のみなさんとは大変かかわりを持つ機会が多ございまして、この話題について触れますと、地域の方自体がまだ移行について存じ上げていないのではないかと、そういう課題があるかなと思います。分かっている方もいらっしゃいますし、その話は何ですかとお聞きすることもございます。私が思いますのは、成果として受け皿があればと記載されていますが、今後、受け皿をどれだけ作っていくかということが大きな課題であろうと思いますし、そのために地域の皆さんにこういったことが行われているということをまずお知りになるということが、第一歩かなと思っておりますし、それから実際に子どもたちが、地域へスポーツを通して帰るということになると、子どもたちのスポーツに対する意識がアスリートを目指す子、運動に親しみたい子、体力を高めたいと色々あると思いますが、そういったニーズに答えていけるかが次の課題になると思います。まずは地域の皆さんに、地域でこれを受けなければいけない状況がきているなということをお知り

になる。これに特化して取り組む必要があるなど感じしているところです。

【北山委員】

ありがとうございます。学校のルールはたくさんありますし、文科省からもいろいろな教育方針があって、その中で従来の部活動が推進されてきたということがありますけれども、地域移行ということになりますと、ある意味学校の手を離れることになると私は思います。とりあえず、休日の部活動ということありますけれども、これは国としては休日だけではなくて、その先には平日の部活動も移行しようという狙いがあります。とりあえず休日を試案的にやってみようということです。昔の話ではありませんが、地域が子どもを育てるというような、そういった活動をやっていくということになります。大井川先生がおっしゃったことが正しくそうで、受け皿の方が知らないということでは無理だろうと思いますし、スポーツ関係の私どもでさえも、まだ実態をよくわかっていない。この情報に関しては相当周知していかないと、とても難しいなと私は思っております。他にいかがでしょうか。森山先生どうですか。

【森山委員（県スポ協専務理事）】

ここには具体的にはでてきていませんが、地域移行に向けて総合型地域スポーツクラブがその一翼を担うということがあったかと思います。そもそも総合型地域スポーツクラブは多世代多趣向という、いわゆる幅広い年齢層で色んなことやりましょうと集まりましょうということがスタートでしたから、そこに突然降って湧いたように、地域移行でクラブチームの面倒を見なさいと言われても、なかなかシフトできないだろうと私は思って見ていました。ただ、市町によっては動いているところもありますし、徐々に前に進んでいるので、もう少し時間がかかるんだろうと思います。

【北山会長】

ありがとうございました。他にどうですか。

【笠原委員（金沢星稜大学講師）】

こうした部活動の地域移行の理由の一つには、日本人のスポーツは学校依存しすぎている学校の枠から出たときに、自発的にスポーツをする

ことが難しくなっていて、さきほど、女性のスポーツの実施率が低いという話もありましたけれども、こうしたものと学校に依存していたいものは無縁ではないといった意見も出てきています。そうしたこともありますので、ぜひポジティブに進めていただきたいと思いますし、地域でスポーツすることは日本では珍しいことではありますが、ヨーロッパではそれが当たり前で、学校に頼っている日本は非常に特殊な状況であるといわれておりますので、是非いいことなんだと考えながら進めていただければと思います。私の方にも少し入ってきた内容では、小学校から中学校に上がろうとしているお子さんがいて、具体的にはミニバスケットボールをしていて、バスケットボールをしたいが、自分が行こうとしている学校では受け入れられないんだと言われていて、ただ隣町の中学では可能なんだと、どうしてこのような差が生まれてしまうのか、という意見がありましたけれども、やはり中学校どういうスポーツをして、どういう高校・大学に行こうと夢を抱いている小学5年生、6年生が、これから進んでいくときに、それが難しいんだという、なかなか乗り越えがたいものがあると思います。ぜひ期待を高めるように進んでいけばいいと思います。

### 【北山会長】

ありがとうございます。スポーツ少年団の館委員はいかがでしょうか。

### 【館委員（スポ少常任委員）】

私は内灘町に住んでおりまして、総合型地域スポーツクラブにも関わっております。内灘町では、すでにいくつかの部活が地域移行を目指しております。そしてまた、スポーツ少年団の教室に小学生が終わった後に、中学生が活動しているところが卓球、柔道、バドミントンなど、スポーツ少年団で受け入れできるところは受け入れているというところです。中学の部活ということは夕方の指導者を探すということが非常に難しい状況であります。やはりその辺が、かなりネックになっていると思います。そして、地域によって部活移行の情報がありますが、内灘町ではスポーツ協会や総合型のスポーツクラブが一緒になって研修を行ったこともあります。また、北國新聞の紙面で地域移行の情報も流れていますので、スポーツに關係しているところは、お分かりになっているのではないかと私は思っております。そして、総合型地域スポーツクラブに直接移行ということではなく、中学校の部活の先生方でも自分が指導したい、そういう先生のご意見もいただいたこともありますので、すべては国の事情に

よってではなく、現場の先生の声というのが一番大事であろうと思っています。それに総合型地域スポーツクラブの方がお手伝いできれば、その先生自身が、そのスポーツクラブの指導者として認定して、一つの教室、一つの部活を、スポーツクラブの活動の場所という形にすれば、さほど問題ではないのかと思っておりますが、何しろ夕方の指導者を探すということが一番ネックになっている。それが現状かなと考えております。

### 【北山会長】

ありがとうございました。それでは竹田委員いかがでしょうか。

### 【竹田委員（勤体協副会長）】

最近では、職場でスポーツするという機会は非常に少ないので、どんどん競技内容が変わってきております。私はバレーボール専門なので、先ほど40代の女性のスポーツをする割合が低いと言われるのは、なぜかというと、試合も練習も行きたいが、子どもの部活動の送迎に時間を取られて、時間がないということが現状です。うちには孫がいまして、小中高と全て揃っているので、現状考えますと、練習試合とか休日に現地集合現地解散といわれるらしいですが、そうすると親が送っていけるうちはいいですが、学校を往復したことのない子が、活動範囲を超えて自転車で現地に行ったことが何度かあるようです。この辺のところを皆さんどこまでご存じか分かりませんが、そういったいろんな条件をクリアしていかなければ、こういった地域移行もスムーズにいかないなと思っております。実際にスポーツと健康は繋がっているので、子どもに運動をさせたいと思っているのはみなさん同じだと思うので、それを日常生活の中でもっと進めていければ楽しく、健康にもつながっていくのではないかと思っております。

### 【北山会長】

ありがとうございます。他にございませんか。

この地域移行をやろうとしたときに、部活では教員と生徒といった限られた人による活動でありましたけれども、これを社会の中におろしていくということは、ありとあらゆる人が関わってきますので、本格的にやろうとしたときには、今ここにいらっしゃる団体すべてが何らかの形で関わっていく必要があるやに思います。決して他人事ということではありませんが、私たちが何かしなければならない時期が来ると思いますし、

また、そうでないと受け皿としては完成しないだろうと思います。これは時間をかけてやっていかなければいけと思いますが、ぜひ県の方でもしっかり取り組んでいただきたいと思います。

そうしましたら、全般で、言い忘れたことや意見がありましたらお願ひします。

ではないようすで、お時間もきましたので、事務局にお返しいたします。

### 【酒井部長】

本日は北山会長をはじめ、委員の皆様からは大変貴重なご意見をたくさん伺いました。ありがとうございます。今ほどのお話の中で、特に女性や若い世代がスポーツに親しむ仕掛けづくりや、パラスポーツを行うための環境づくり、部活動の地域移行に向けたもうもろの課題についてのご指摘などがございました。冒頭にも申し上げましたけれども、本日いただきましたご意見につきましては、来年度の当初予算編成の参考とさせていただきます。予算に基づいて具体的な取り組みを行うことを通じまして、より一層のスポーツの振興を図っていきたいと考えております。本日はお忙しい中誠にありがとうございました。

### (閉会)